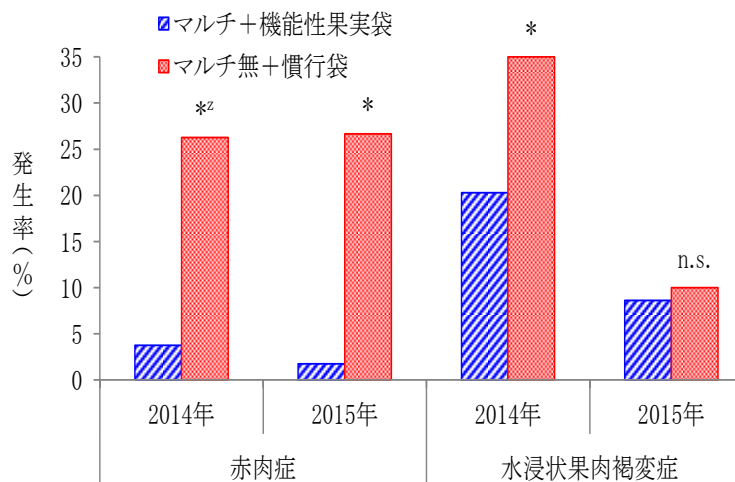


# 機能性果実袋と部分マルチの組合せで モモの果肉障害を軽減



機能性果実袋（左上）と 部分マルチを組合わせたモモ樹

機能性果実袋と部分マルチの組合せによる果肉障害軽減効果

## 開発のねらい

岡山を代表する果物のモモですが、近年、夏季の異常高温や大雨により、果肉障害が起こりやすくなっています。このため、果実の温度上昇を抑える機能性果実袋と、水分吸収を抑える部分マルチを組合わせた、果肉障害を大幅に軽減する技術を開発しました。

## 新技術の概要

- ▶ 機能性果実袋は、通常の袋に赤外線を反射しやすい酸化チタンをコーティングしたもので、高温時の果実温度を1℃以上下げる働きがあります。
- ▶ 部分マルチは、透湿性防水シートを用いて、満開40日後頃に樹の根元（4m四方）に敷きます。これで大雨時にモモ樹の急激な水分吸収を回避できます。
- ▶ 両者を組合わせると、赤肉症や水浸状果肉褐変症などの果肉障害が大幅に軽減されます。

## 活用場面

夏季の高温多雨条件でも、岡山ならではの高品質なモモが生産でき、「岡山白桃」のブランド強化につながると共に、農家経営も改善されます。現在、機能性果実袋は、製袋メーカーが市販化を目指して準備中です。